


(著作権の関係等により、ホームページ上に掲載することができない資料を一部割愛しております)

平成30年9月26日(水)
平成30年度 第2回
大阪府立狭山池博物館運営審議会

資料
3



狭山池博物館の 効果的・効率的な運営について (素案)

1. 狭山池博物館の意義と目指すもの
2. 狭山池博物館の取組みの方向性
3. 効果的・効率的な運営について
効果的・効率的な運営に向けた3つの取組み
 - ①他機関との連携推進
 - ②博物館全体の空間活用
 - ③新たな収入の確保
4. 付記事項

1. 狭山池博物館の意義と目指すもの (ここにしか無い"土木"とまちのシンボル)

西暦	1997	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	202x	
平成	9	~	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	~
	建設着手		開館		財プロ								史跡指定		区域指定		大規模修繕着手						
運営体制	府						三者協働(府・市・地元)						三者協働(+α)						...				

意義 狭山池の歴史的価値・改修の歴史・「平成の大改修」の内容と意義を後世に伝える

土木の歴史的価値の継承

■ 狭山池の歴史を通じ過去の土木技術を伝える

・ 貴重な歴史遺産と土木技術、土地開発史として歴史と文化の継承の意義を高め、保存技術を駆使し後世に広く伝える。

⇒ ・ 先人たちが地域の安寧と発展に注いだ熱い思いの伝承
 <土木技術者へのメッセージ>
 <狭山池の歴史の伝承>

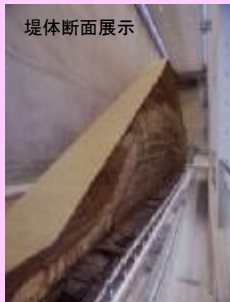
・ 土木事業やかんがい事業の意義の訴求
 <土木への府民理解の推進>

⇒ 歴史的ダム保全事業により
 土木主体の博物館を建設

【土木主体の博物館としては日本で唯一】

<博物館建設成功の因>

- ・ 狭山池が土木工事の歴史的遺産
- ・ 産・学・官の連携による建設
- ・ 地元からの期待と支援 (地域の財産)
- ・ 国の理解と支援 (土木事業への期待)
- ・ トップの歴史・文化的センス (土木博物館)
- ・ 時代背景 (好景気・公共事業費の上昇)



堤体断面展示

重源狭山池改修碑(国重要文化財)



土木の役割・意義の発信と将来に向けた展開・発展

土木事業・土木技術の歴史
 「知」の交流・発信拠点

防災教育
 拠点

現在の文化、人の交流の場として活用
 まちのシンボリック資産となり、
 まちの価値を高める

■ 狭山池築造で駆使された土木の歴史を踏まえ、土木の価値・機能を発信する

- ・ 土木事業・技術の広報
- ・ 新たな土木技術の発信
- ・ 狭山池研究成果の発信

⇒ <将来を担う技術者の育成>

- ・ 収集保存機能の強化、調査研究の推進
 <アーカイブス整備>

・ 防災インフラの価値発信
 ・ 生涯学習・学校教育支援 (教育学習・流域住民)
 <防災教育拠点化>

「コミュニケーション」
 「アプリケーション」

相互
 連携

「アーカイブス」

展示・情報発信

新技術等のPR

教育学習・一般参加

(小学生 校外学習風景)

収集保存

調査研究



地域魅力創造

■ 狭山池の持つ多面的価値を活用する

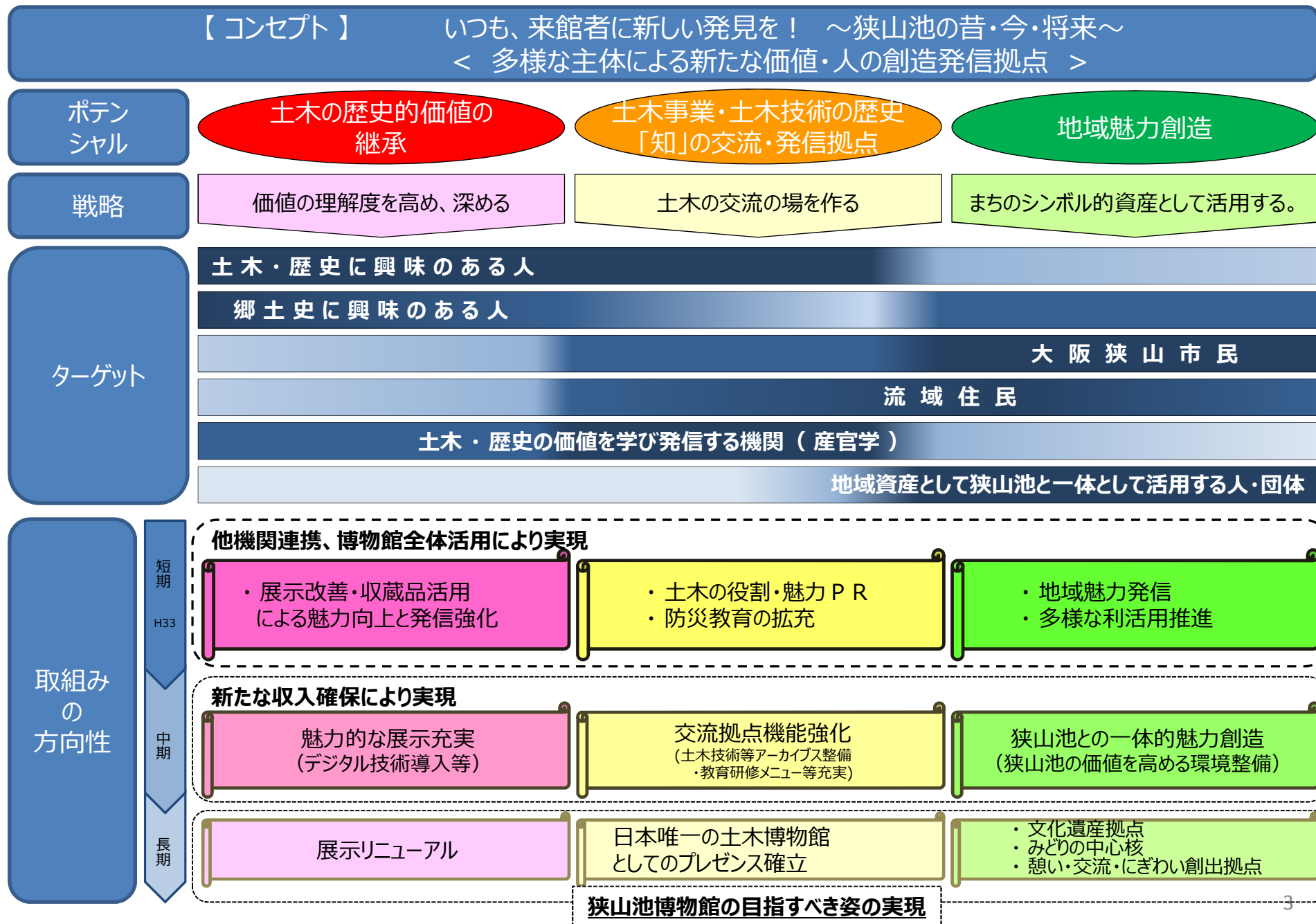
・ 「まちのシンボリック資産」価値の創造 (ブランディング)
 (安藤建築、日本最古のダム式ため池)
 <地域価値の創造>

・ 地域協働、郷土学習、狭山池散策、観察など多様な目的を持つ主体が集う場の形成
 <文化、人の交流拠点創造>



資料の収集・保管・展示、史跡狭山池の調査・研究、成果のアーカイブ、経験「知」の蓄積

2. 狭山池博物館の取組みの方向性

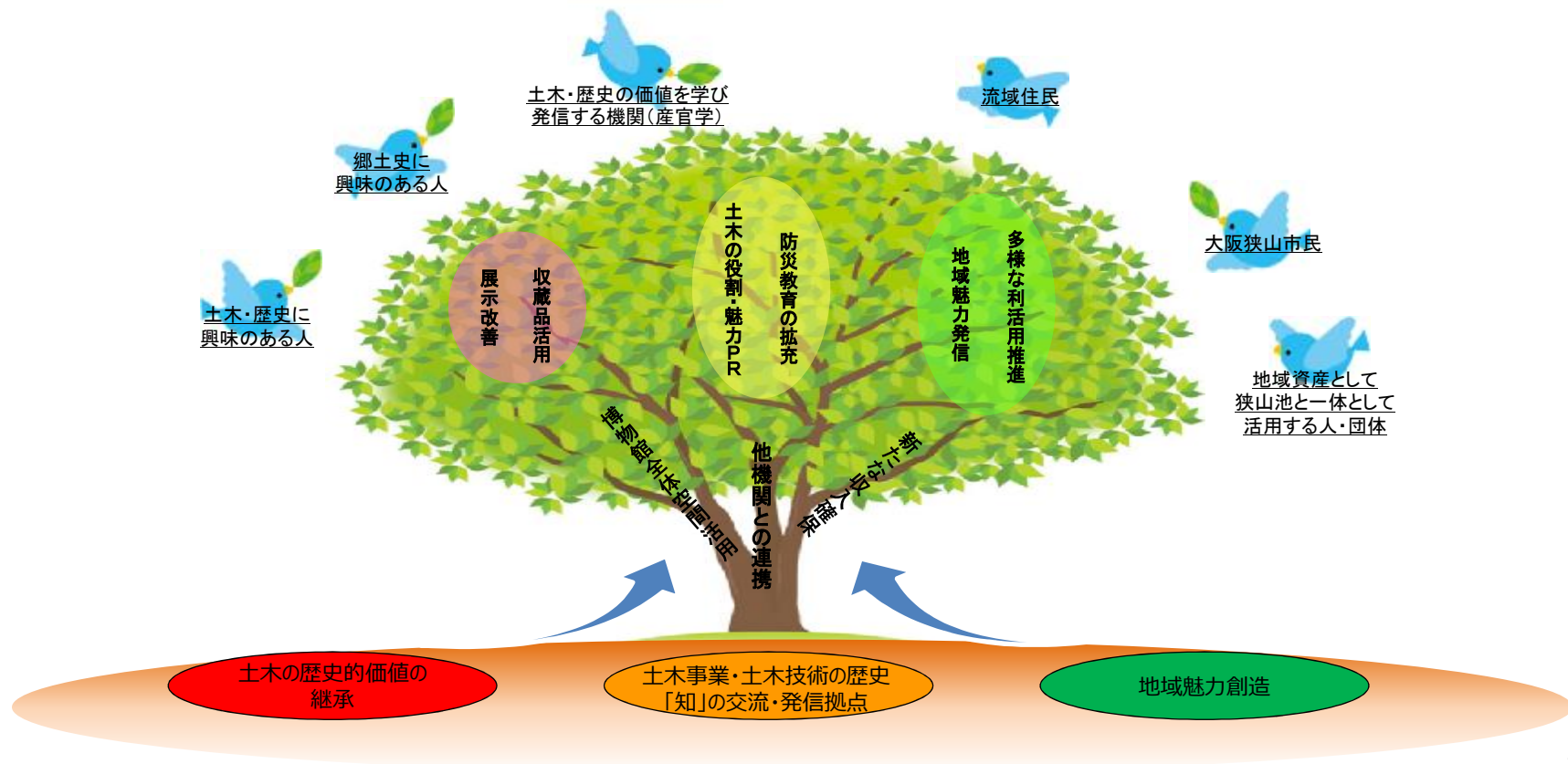


3. 効果的・効率的な運営について

効果的・効率的な運営に向けた3つの取組み

狭山池博物館の効果的・効率的な運営の実現のために、以下の3つの取組みを行い、博物館の魅力を向上させ、来訪者を増やすことによって、さらに効果的・効率的な運営システムを確立する。

- ① 他機関と連携した新たな企画による来訪者数の向上（効率的な博物館運営）
- ② 博物館全体の空間の多様な主体による利活用（施設の効果的活用）
- ③ 中長期の取組み実現に向けた新たな収入（自主財源）確保

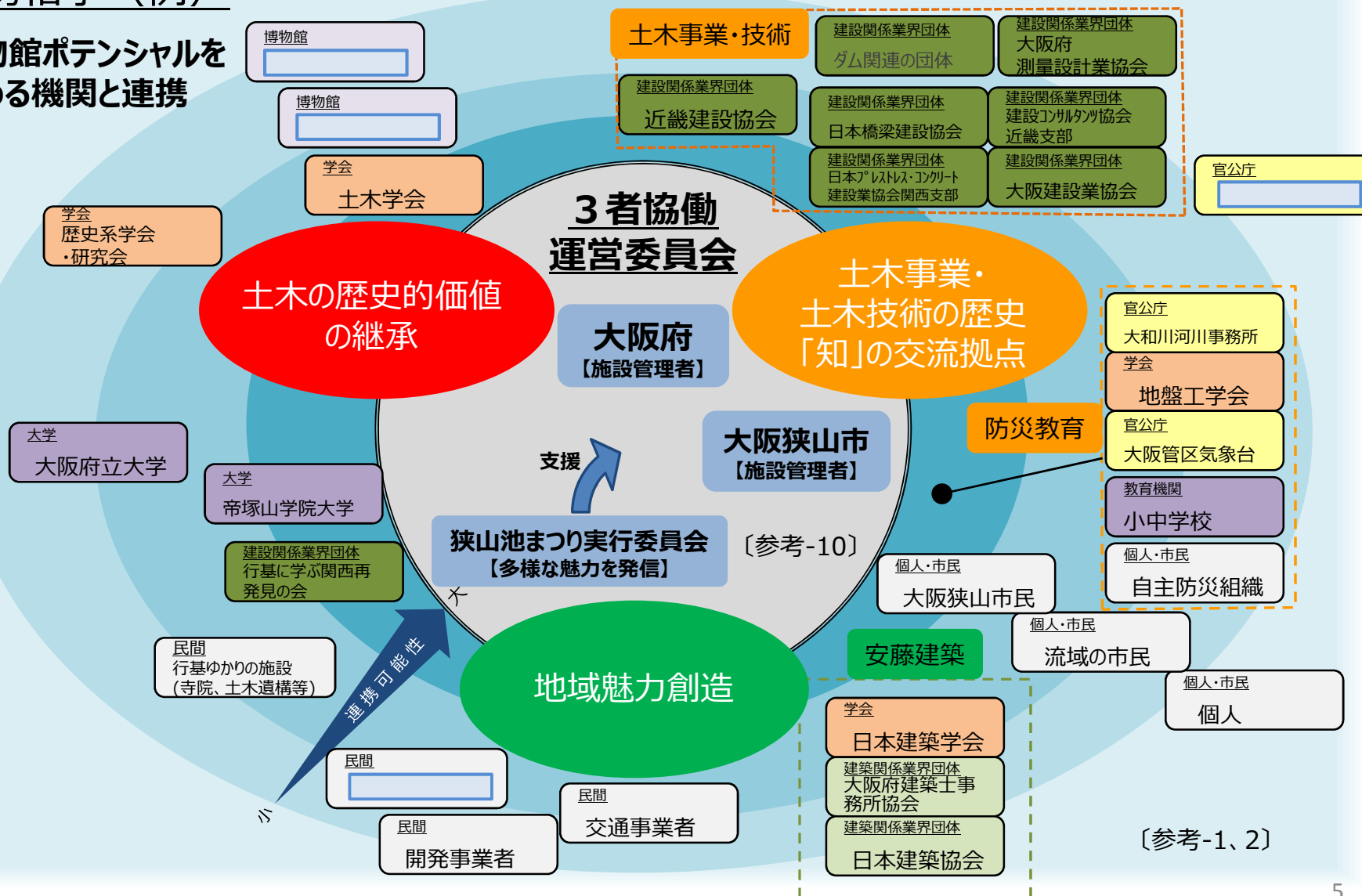


3. 効果的・効率的な運営について

① 他機関との連携推進

連携相手（例）

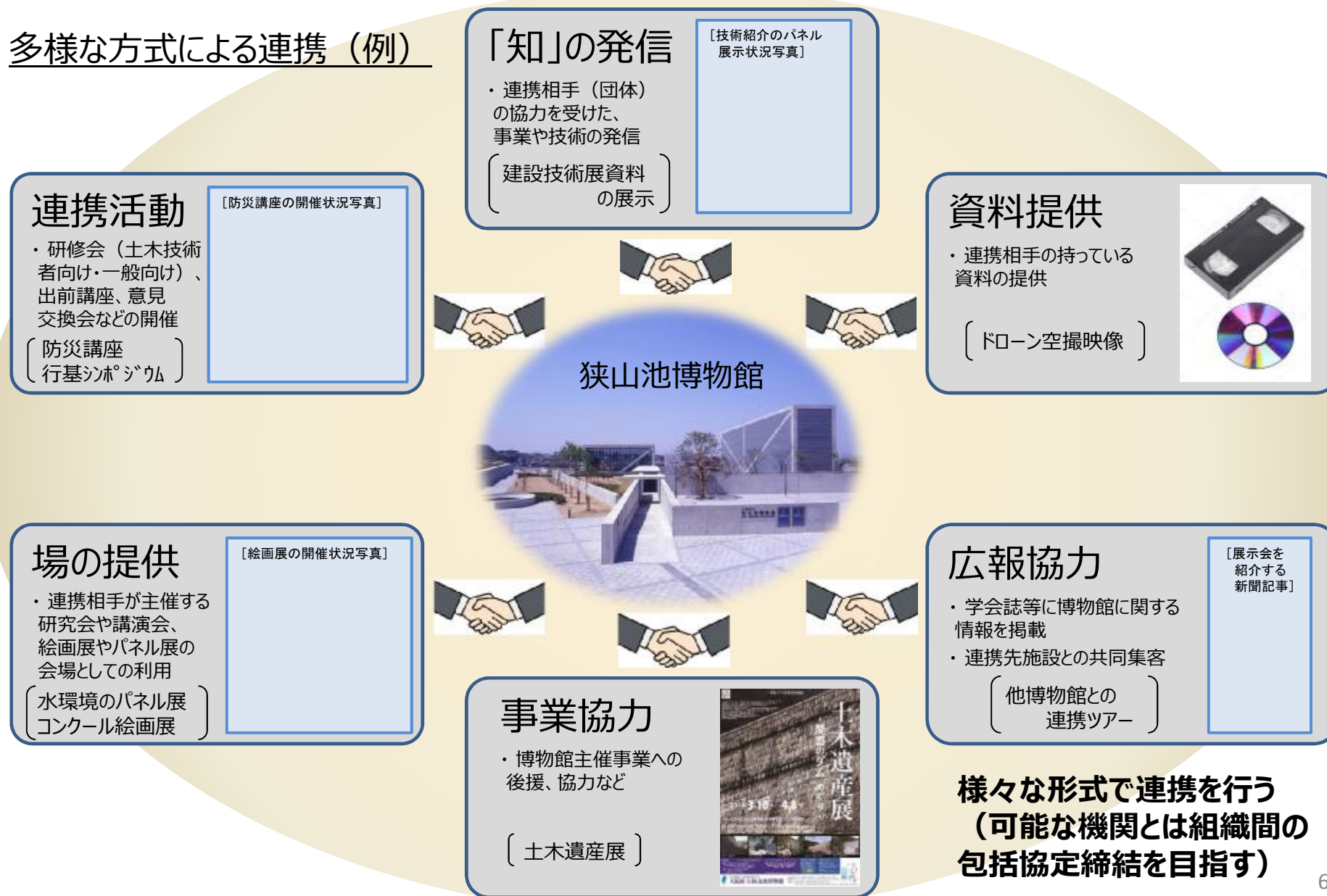
博物館ポテンシャルを
高める機関と連携



3. 効果的・効率的な運営について

① 他機関との連携推進

多様な方式による連携（例）



施策展開（例）

	ポテンシャル		
	土木の歴史的価値の継承	土木事業・土木技術の歴史 「知」の交流・発信拠点	地域魅力創造
短期的 取組み	<p>○ 展示改善・収蔵品活用 による魅力向上と発信強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い層が理解しやすい展示内容への改良 ・展示、案内の多言語対応 ・見て、触れてわかる展示の作成 ・どぼくランドの情報充実、見せ方改良 ・ホームページの発信強化 (展示物解説、収蔵品一覧の掲載等) ・連携機関による博物館活用の推進 	<p>○ 土木の役割・魅力PR</p> <p>○ 防災教育の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設技術展（模型、VR等） ・土木事業の意義と魅力や最新技術を伝える企画展、講演会の開催 ・ため池・ダムに関する情報の収集・発信 (情報量日本一の博物館) ・高校・大学の研究発表やワークショップの開催 ・子供向け土木体験イベント実施 (測量体験、構造物組立体験等) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災情報を発信するための展示改良 ・小中学生の課外授業受入拡充 </div>	<p>○ 地域魅力発信</p> <p>○ 多様な利活用推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狭山池まつりをはじめとするにぎわいづくり ・SNSを活用した情報発信 ・民間と協力したハイキングコース設定と 広報紙によるPR ・安藤建築の魅力を活用した見学会や 建築イベントの開催 ・博物館・狭山池オリジナルグッズ開発 ・行基ゆかりのネットワークを用いた魅力発信・ イベント開催 ・インフラツーリズム誘致 ・狭山池から博物館へ誘導する仕掛けづくり (統一したデザインの案内板設置) ・歩行者ネットワーク形成、狭山池と西除川 緑道のアンダーパスによる接続
中期的 取組み	<p>○ 魅力的な展示充実 (デジタル技術導入等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示のデジタル化 (デジタルサイネージ、VRなどの導入) ・展示と現物(狭山池)の一体化 (狭山池現地の説明板改良等) 	<p>○ 調査・研究の拠点機能強化 (土木技術等アーカイブス整備 ・教育研修等メニュー充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設の防災学習拠点施設の設置 ・資料・情報等のデジタルアーカイブス作成 ・残存する池守田中家文書の解読・発信 	<p>○ 狭山池との一体的魅力創造 (狭山池の価値を高める環境整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史資産の活用 ・狭山池に集える水と緑の歩行空間ネットワー クづくり ・パークマネジメント(狭山池公園)との相乗 効果発現（地域活動や日常利用の場の創出） ・民間による狭山池公園・狭山池博物館の 運営サポート
長期的 取組み	<p>○ 常設展示の全面的リニューアル</p>	<p>○ 日本で唯一の土木主体博物館として のプレゼンス確立</p>	<p>○ 狭山池を核としたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史資産の発信拠点形成 ・みどりの中心核としての賑わいづくり ・水と緑のアメニティ軸整備

3. 効果的・効率的な運営について

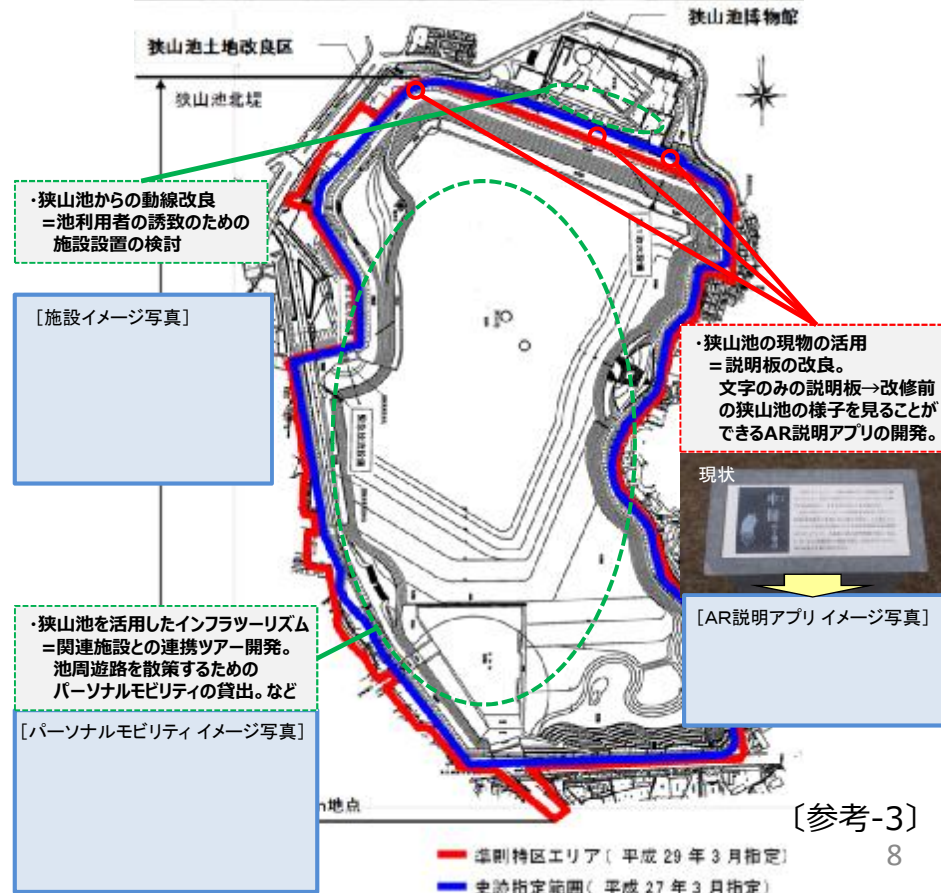
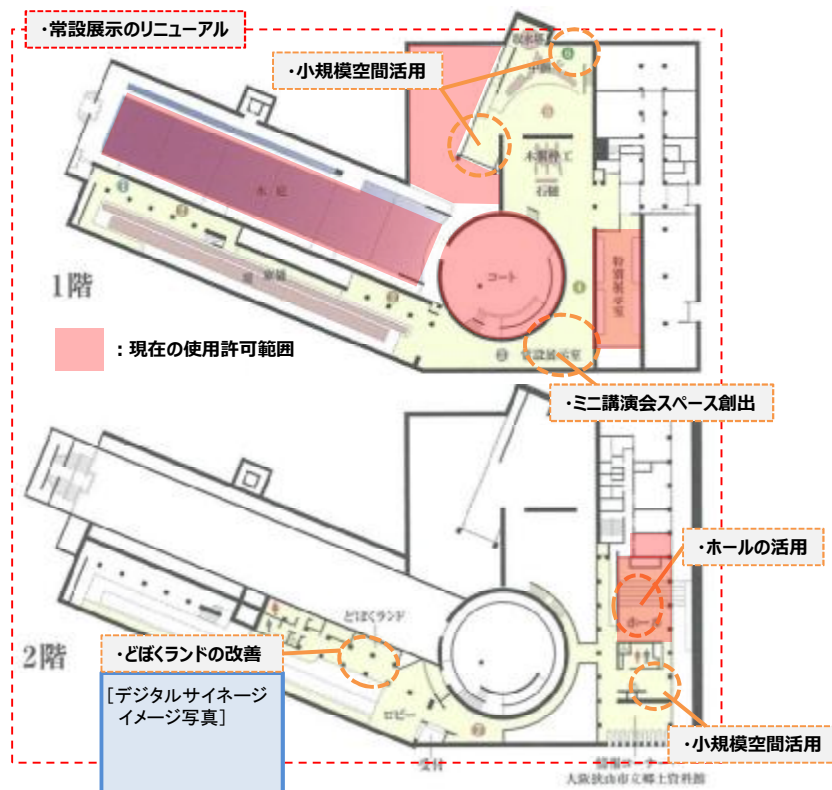
② 博物館全体の空間の活用

○ 博物館全体の空間を効果的に活用

- ・使用許可範囲の拡大

○ 狭山池との結びつき強化

- ・狭山池から博物館へ誘導する仕掛けづくり
(サインボード、案内表示板設置、歩行者ネットワークなど)



3. 効果的・効率的な運営について

③ 新たな収入確保

○ 魅力を高めるための運営費

土木の歴史的価値の継承

魅力的な展示充実

デジタルサイネージ

[デジタルサイネージ イメージ写真]

VR体験

[VR体験 イメージ写真]

土木事業・土木技術の歴史「知」の交流・発信拠点

交流拠点機能強化

交流拠点コーナー



地域魅力創造

狭山池との一体的魅力創造



⇒ 新たな収入の確保 (案)

- ◆ 使用料設定範囲・単価の見直し
 - ・ 全空間使用料設定
 - ・ 目的別の弾力的使用料設定
- ◆ 駐車場の有料化
- ◆ 特別展等の有料化
- ◆ グッズ販売

等

- ◆ 外部資金の導入
 - ・ 助成金
 - ・ 補助金
- ◆ 博物館応援団づくり 等

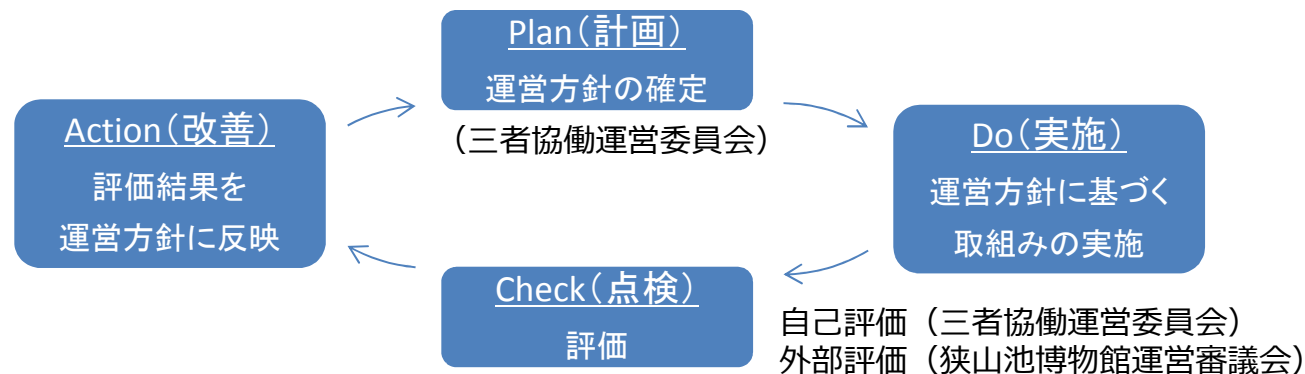
○ 基盤となる運営費 = 人件費 / 光熱水費 / 通信費等 / 施設管理費 / 施設補修費 / 特別展・企画展等の製作費

⇒ 計画的な維持管理費の確保

[参考-4~9]

4. 付記事項

○ 持続可能な運営改善に向けたPDCAサイクルの確立



○ 取組みに合わせた目標設定

狭山池博物館の重点取組 (例)

- ① 土木の歴史的価値の継承
- ② 土木事業・土木技術の歴史、「知」の交流・発信拠点
- ③ 地域魅力創造

評価指標 (例)

【現行指標】

基礎指標

- ・利用者数
- ・施設稼働率
- ・行政コスト
- ・利用者満足度



【新規】取組み別指標 (例)

① 土木の歴史的価値の継承

- ・寄贈資料受入数
- ・館蔵資料貸出(閲覧)数
- ・研究・調査実績
- ・HPアクセス数

など

② 土木事業・土木技術の歴史「知」の交流・発信拠点

- ・連携事業件数
- ・土木関係者の来館者数
- ・小中学生来館者数
- ・講座開設数

など

③ 地域魅力創造

- ・狭山池関連活動団体数
- ・メディア掲載実績
- ・「大阪狭山市駅」乗降客数
- ・空間快適性への満足度

など

(評価指標については年度ごとに見直し)